



静思

高森町立高森中学校だより 第308号
(令和6年度 第4号)
令和6年(2024年)12月26日

担当：教頭 田中清一

2学期が終業となりました 高宮校長先生のお話



8月23日(金)に始まった2学期も、本日で終業となります。真夏の暑い盛りから、氷が張り雪が舞う12月まで、85日間の学校生活でした。2学期の始業式で皆さんにお願いをした、「自ら考え、自ら行動する」ことが実現できた2学期になったのでしょうか？

<8月>

- ・2学期始業式
- ・PTA親子作業



<9月>

- ・中体連新人大会(～11月)
- ・教育課程研究協議会(3年1組 数学)

☆第60回小原ヶ丘祭
<統合開校60周年記念式典>



<10月>

- ・小学校部活動参観
- ・地域学習(1年生)




8月には、PTA親子作業がありました。1年生の皆さんと保護者の皆さんが約240名集まり、校庭の除草作業、花壇の整備等に取り組んでいただきました。そのおかげで、文化祭前の学校が、美しく整いました。9月には中体連新人大会が始まり、2年生を中心とした新チームによる部活動が本格的に動き出しました。また、下伊那地区の数学を担当する先生方が本校に集まり、3年1組の授業を参観したり、研修を行ったりする研修会もおこなわれました。3年1組の生徒の皆さんが本気になって、楽しく数学を学ぶ姿が、多くの先生方から賞賛されました。そして9月末には、統合中学校開校60周年を記念する小原ヶ丘祭が盛大に開催されました。「自ら考え、自ら動く」姿は、校内のいろいろなところで見られた、すばらしい3日間になったと思います。11月には、5年ぶりに開催された郡市連合音楽会に3年生が参加し、「合唱の高森中」の伝統の力を多くの人たちに伝えてくれました。また、11月の参観日にあわせて行った「高森の時間」の学習発表会では、下伊那地域の魅力にとことんふれたり、職場で働く本気の大人の中に入り込んで体験を通じて学んだり、高森町の今やこれからについて真剣に考え行動したりしたする中で成長した自分たちについて、自信をもって伝える

<11月>

- ・郡市連合音楽会
- ・高森の時間 発表会
- ・生徒会役員選挙
- ・小6生中学校体験



<12月>

- ・懇談会
- ・生徒総会
- ・終業式

年末年始休みへ




☆高森の時間 ～We love Takamori Town!!～






- 高森町を元気にしたい!
- 高森町の魅力を伝えたい!
- 高森町の自然や美しさを守りたい!
- 高森町の魅力をこれからも受け継いでいきたい!
- お世話になった方々に感謝したい!

2025年をどんな年にしたい！

蛇は古代から再生や永遠の象徴とされ、皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる姿がその象徴となっています。

こうした意味から、巳年は**新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す**年とも解釈されています。

～自ら考え、自ら動く～

「やってみよう！」の決意が大事に

1/8(水) 元気に会いましょう



姿がありました。特に、3年生の発表からは、高森町を元気にしたい、高森町の魅力を伝えたい、高森町の美しい自然を守りたい、高森町の魅力をこれからも受け継いでいきたい、そして、学習の中でお世話になった方々に感謝したいという思いが強く伝わってきました。さらに、11月には小学校6年生の中学校体験も行われました。1年生の皆さんが、先輩として頼もしく活躍する姿があ

りました。そして12月、三者懇談会、生徒会役員選挙と生徒総会と生徒会引き継ぎ、そして今日の終業式がありました。こうやってふりかえってみますと、2学期の85日間の中で、高森中学校の生徒の皆さんは、「自ら考え、自ら動く」ことがたくさんできていたのではないかと思います。

さて、皆さんは来たる2025年をどんな年にしたいでしょうかちなみに、2025年の干支は「巳年」(みどし・へびどし)です。蛇は古代から、再生や永遠の象徴とされてきました。それは、蛇が皮を脱ぎ捨てて、新たな姿に生まれ変わることに由来します。こういったことから、「巳年」は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示せる年とも言われます。ぜひ、この年末年始休業中に、生徒の皆さんひとりひとりが、「自ら考え、自ら動く」ことを「やってみよう！」と決意し、新しい自分をつくることのできる「巳年」になるための心の準備をしてみてください。年明け1月8日(水)に元気に会いましょう。

「自主 自律 自省」に満ちた躍動の2学期



1年生と小学校6年生の温かな対話が行われた、中学校体験学習のひとつま(11月26日)



途切れることなく発言が続き、生徒会活動を通じた自分たちの成長を確認し合った生徒会総会(12月16日)

2学期の高森中学校では、生徒の「声」の交わり合いが多く見られました。「共に生きる」ことのスタートは、まったく異なるひとりひとりの「声」の交わり合いを通じた、相互理解だと思えます。

【校歌の一節「誠実をもちて顕わさん」そのものの生徒の姿】

国語の授業で、人は絶対に一人で生きていくことは難しいけど、だからといって人とずっと一緒に行動するのではなく「自立」していくことが大切、ということ学びました。僕は誰かについていくことばかりで、自立が全くできていません。それに、時間が過ぎていっているとわかっているのに、周りに流されてしまい、ゆっくりしていることが多いので、自分のためにも正しい選択を行い、自分自身で自立できるように心がけていきたいです。(3年生 Aさん)

【今月のうた ～校歌の作詞者・窪田空穂の短歌より～】

命とはうるさきものかも人中にまじわれればわびし独あればさびし (『丘陵地』より、春秋社、1957年)

